

No.6

夏の屋戸湿地

うだるような暑さの夏でも生き物たちは元気です。屋戸湿地には湿地特有の動植物がたくさん生活しています。代表的なものを紹介します。ぜひ一度訪ねてみてください。



1：サギソウ



2：トウカイコモウセンゴケ



3：ミミカキグサ

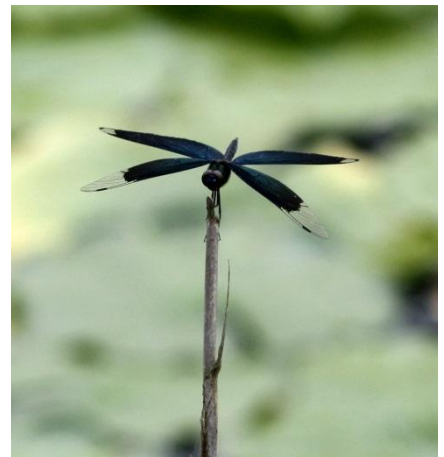
- ① **サギソウ (ラン科)** 屋戸湿地など日当たりの良い湿地で8月頃咲く多年草。地下に球茎があり、細い地下匍枝を出し増える。白鷺が飛んだような花は実に優雅です。近年数が減っています。
- ② **トウカイコモウセンゴケ (モウセンゴケ科)** 食虫植物。日当たりの良い湿地などで6月中旬から9月下旬頃までピンクの可愛い花が見られます。地表近くの葉の表面に粘毛を付け虫を捕まえます。
- ③ **ミミカキグサ (タヌキモ科)** 食虫植物。高さ5~15cmになり、上部に直径約5mm黄色い花を数個付ける。地下に小さな捕虫囊を付け虫を捕える。花のあとの萼が大きくなり耳かきに似ています。



4：ミカヅキグサ



5：ハッチョウトンボ



6：チョウトンボ

- ④ **ミカヅキグサ (カヤツリグサ科)** 高さ20~60cmの多年草。尾瀬湿原などの高層湿地に多い草が屋戸湿地でもたくさん見られます。白い花びらのように見えるのは小穂。花期は6月頃から8月下旬。
- ⑤ **ハッチョウトンボ (トンボ科)** 体長約18mm。日本で一番小さいトンボ。5月下旬頃より羽化する。海上の森では屋戸湿地他2、3ヶ所で見える。オスは真っ赤で尻尾を上げて止まる。メスは黄色。
- ⑥ **チョウトンボ (トンボ科)** 湿地のアシの枝に止まる姿をよく見かけます。飛ぶ姿はチョウのようにひらひらと飛びます。オスの羽は日の当たり具合によりメタリックに輝き、メスは地味な感じです。